

(電子メール施行)
農技第1154号
平成28年6月2日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

平成28年度病虫害発生予報第2号を発表します。

平成28年度病虫害発生予報 第2号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(葉いもち)	平年並	平年並
	ヒメトビウンカ	やや多	平年並
	海外飛来性ウンカ類 (セジロウンカ)	やや多	—
ナシ	黒斑病	平年並	やや少
	黒星病	やや少	少
	ハダニ類	やや少	少
	アブラムシ類	平年並	やや少

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(6月4日から7月3日までの天候見通し)

平成28年6月2日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

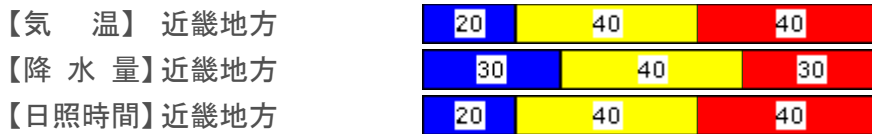
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

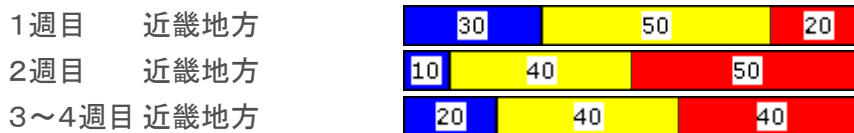
週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 6月 4日(土)～ 7月 3日(日)
- 1週目 : 6月 4日(土)～ 6月10日(金)
- 2週目 : 6月11日(土)～ 6月17日(金)
- 3～4週目 : 6月18日(土)～ 7月 1日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病（葉いもち）】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

5月下旬の時点で県内における発病は認めていないが、今後の気象条件は1か月予報によると気温は平年並み～やや高く、降水量は平年並み、日照時間は平年並み～やや多いと予想され、平年並みの発生で推移すると考えられる。

- (3) その他

6月6日より梅雨明けまで、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページ上でBLASTAMによるいもち病の感染好適日の情報を提供予定なので参照のこと。

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>

2 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量： やや多
(2) 予報の根拠

ア 5月下旬のムギの県予察ほ調査での発生量は平年並みであった。今後は、成虫になるに伴って6月上旬頃から移植されたイネに移動すると考えられる。

イ ヒメトビウンカの発育ステージは平年並みだが、今後気温が高めに推移することによって、成虫の本田への飛び込みが促されると考えられる。このことより、縞葉枯病の発生が助長されることが懸念される。前年度に本病が多発したほ場周辺では注意が必要である。

- (3) その他

今年度の第1世代虫（ムギ採集個体）におけるイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果については、6月中旬頃発表予定なので、こちらの情報も参考にされたい。

3 【海外飛来性ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）】

- (1) 予報の内容 発生量： やや多（飛来時期： やや早い）
(2) 予報の根拠

ア 九州地方では、5月上～中旬にセジロウンカの飛来が確認されており、本県でも西播地域のムギで飛来個体を5月12日に確認している。例年より飛来が早いことから、すでに移植を終えている水田では早くから増殖すると考えられる。今後も梅雨前線の活動に伴い飛来が予想される。

イ 今後の気温の上昇に伴い、飛来虫のイネでの増殖が懸念されるので注意が必要である。

ナシ

1 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

5月中旬の県予察ほ調査では、但馬地域の短果枝でわずかに発病が見られる程度であるが、今後の1か月気象予報では発病に好適条件であり、今後は平年並みの発生が予想される。

2 【黒星病】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

県内での発病は認めていないが、1か月気象予報では発病に好適条件であり、今後の発病はやや少なく推移すると予想される。

3 【ハダニ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

県内では発生を認めていないが、今後の気温の上昇に伴い、発生がみられることが予想される。

4 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

但馬地域でやや少ない発生を認めている。今後の気温の上昇に伴い増加し、平年並みの発生で推移すると予想される。

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)